

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 4270600333 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人さゆり会 | | |
| 事業所名 | ゆたっとはうす | | |
| 所在地 | 長崎県五島市下崎山町716番地5 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年8月23日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年12月21日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F | | |
| 訪問調査日 | 平成22年9月8日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東に五島灘の海、西には火の岳を望む大自然に囲まれた環境の中にホームは建てられています。海からの朝日、四季折々の窓辺の景観は、入居されている方々の目を楽しませ心に潤いを与えてくれます。畑に出かけ農作業や園芸にて収穫の喜びや料理をする事も、心と身体のリハビリとなります。地域の方々の出入りおありますまた、地域の一員として地域へも出かけます。ご家族様との定期的な夕食会では、楽しいひとときを過ごします。併設のデイサービスセンターの利用もまた、馴染みの交流があります。一人ひとりの笑顔を大切にします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

22年春、ご利用者、職員、新管理者の新たな年度が始まった。窓から見える五島の海の景色は変わらず美しく、“ゆたっとはうす”の生活も変わらず続けられている。リビングでくつろぐご利用者の笑顔、職員の温かい笑顔は来訪者を温かく迎えて下さるが、今年は、4月から就任された新管理者の優しい笑顔と笑い声が重なり、更なるホームの明るさを増している。日々の生活も、新管理者の方針でもある“エコ(地球への優しさ運動)”への取り組みが広まり、“手作り味噌”や“無駄な電気の節約”“生ごみは畑に”“乾燥機の使用を減らし、洗濯物は太陽で乾かす”など、職員の意識も着実に“エコ”に変化してきている。日々の食事も新鮮な食材が使われており、ご家族が差し入れて下さった野菜や魚、ホームの畑で収穫した旬の野菜を使った美味しい料理が作られており、母の日にはバイキングを楽しんだり、手打ちうどんや味噌作りなども行われ、楽しい食事の時間となっている。今後も、職員個々の考えを大切にするために、職員全員で考える機会を増やしていく予定にしておき、更なる職員の力の発揮が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|--|
| | | 実践状況 | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を全職員が頭に入れて、壁などにも貼りだしより良い介護ができるように、ミーティングや申し送り等で一人ひとりに合わせたサービスに取り組んでいきます。 | 「ゆっくり・楽しく・笑顔で」という理念のもと「一人ひとりのリズムやペースを大切にします。一人ひとりの自尊心を守り大切にします。地域に貢献し家族と共に楽しめる時間を大切にします。」という言葉掲げている。職員は、ご利用者の思いや“できること”を念頭に置き、その方らしく生活をして頂けるよう、理念の実践に取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している | 地域のスーパー等に買物に出かけています。チャンココ・ヘトマトの見学を行っています。マラソンや駅伝の応援にグッズを作り元氣良く応援していました。 | 火災時の緊急連絡網で近隣からの協力を得るために、地域の方々に声をかけたり、同法人のバザーに参加し、知人と会えるようにするなど、地域の方々と交流に努めている。小中学校合同の運動会の応援に出かけたり、中学生のボランティアの受け入れは毎年行っており、地域行事にも積極的に参加している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議の定期開催や、ホームの広報誌による生活の様子や行事等が伺えるように写真も入れて掲載しています。近隣の店に出かけたり買物をし地域の人に理解してもらえるようにしています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回定期的に開催しており、入居者状況報告や行事報告等を行っています。参加者のご意見を記録に残し、ご家族へ送ったり職員へ報告を行っています。 | ご利用者・ご家族・民生委員・市職員に参加頂いているが、ご利用者には、負担にならないよう交代で参加頂いている。会議を通して地域の情報を頂いたり、地域の行事に参加する際の介助の工夫等について、話し合いが行われている。 | 21年度は、駐在署の警察官にも参加頂けており、近隣の施設の職員の方にも参加のお願いをしている。会議の場を通して、出席者の方から更に意見を頂けるように工夫していきたいと考えており、参加メンバーの検討を続けていく予定である。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 推進会議の案内や更新、報告書、広報誌の配布など役所を訪れる機会を図りながら、情報交換に努めている。 | 市の担当者の交代後も、これまでと変わりなく良好な関係が保たれている。日頃から、ホーム運営に関する情報を提供して下さったり、「安全のため、ストープは置かない方が良いのでは・・・」等のアドバイスも頂けている。ホーム便りは、毎回、市の方に持参している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会があり、定期的な会議がありアンケートをとって、再検証したり防止に繋がります。夜間は、防犯の為、施錠し、昼間は掛けていない。 | 身体拘束は行っておらず、さりげない見守りを続けながら、自由に外出できる環境が作られている。自室で休憩中に移動され倒れた方がおられたが、手すりを付けるのではなく、居間で休んで頂き、見守りができる体制を整えるなど、より安心安全に生活できる方法の検討が行われている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 定期的な身体拘束委員会での会議や職員全体での研修会を開き、虐待を受けている人のサインに気づき見逃さない事が虐待を防ぐ第一歩である。 | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員全体での研修会を開き、専門の方より講演していただき、安心、生き生きとした生活のお手伝いができるように努める。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ご家族の状況に応じて、自宅にて説明させて頂く事もあり、出来る限り不安や心配がないように質問にお答えし、納得して頂けるように努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族の面会の時や夕食会の時に気軽に話ができるように職員間で心掛けています。広報誌にコメントを書いて、外部の方にも見ていただき意見をいただけるように取り組んでいます。 | ご家族からは、運営推進会議の場や面会の機会を通して意見を頂いている。2ヶ月に1回、家族会を行っており、多くのご家族に参加して頂けるよう、できるだけ早めに日時の連絡をしている。頂いた意見は運営推進会議で検討され、家族にも記録を送っている。前管理者手作りの赤いポストの意見箱も玄関に置かれている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 個人面接やケース会議・全体会議等に意見を聞き反映できるように心がけている。申し送りノートに書いてもらい、一度は試してどうだったか、また検討している。 | 日々のケアの方法や研修内容の希望など、職員からの意見やアイデアがあがっており、法人の全体会議の中でも、それぞれの事業所ごとに意見を出し合い、検討が図られている。今後も業務改善に取り組み、働きやすい職場作りに取り組んでいく予定にしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 資格等の奨励、個々の意欲・意見が反映されるように、勤務体制に於いても考慮されている。また、職員全てに於いても資格実績の把握に努め、条件の整備に取り組んでいます。能力開発シートの各自取り組みもされている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 事業所全体での年間研修計画があり、職員全員が研修へ参加できるように努めています。また、外部研修への案内や機会を設けられるように検討している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 定期的にグループホーム会議を市の協議会にて実施しています。事例検討会などその施設の悩み相談も聞いてもらい、サービスの向上に取り組んでいます。 | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人の心身の状態に配慮し、心地よい雰囲気作りには留意している。一方的ではなく安心して本人から伝える事ができる様に傾聴し、その関係作りに取り組んでいる。ケアマネや家族からの情報提供もされている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の時間、場所など考慮しゆっくりと話せる雰囲気作りには配慮し、意見や要望等が伝えられるように努めている。ケアマネや事業所からの情報提供もあり、ご家族の意向が反映されるように取り組んでいる。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族の心身の状況の変化、把握に努めながら随時、必要とされるサービスの提供が出来るように、職員間での気付き、情報の共有を図り対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 常に自分は介護をさせてもらっていると頭に置き利用者の精神面・身体面での負担がかからないように家族のような関係でと思い介護させて頂いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人と家族の絆が絶えないように、本人が軽いケガをしたときでも連絡するように努めています。家族に心配掛けないようにし、時には、本人が家族へ電話をすることで安心できる様に取り組んでいる。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 広報誌の配達などで昔の友達いるがいる場所に行く時は、出来るだけその利用者を連れて行けるように心がけてる。自宅に戻れるときには、事前に連絡し取り組んでいる。 | ホームでは、入居前からの馴染みの方の訪問があり、定期的に電話をかけて下さる方もおられ、状況報告や会話のお手伝いを職員が行っている。職員と一緒に馴染みの寿司屋に出かけたり、ご家族の協力を頂きながら、墓参りに出かけるご利用者もおられる。 | 馴染みの方々に、年賀はがきや暑中、残暑見舞いのはがき等、積極的に送っていきたいと考えている。意思疎通が難しい方には、ご家族からお話を伺いながら情報収集に努め、プランにも反映できるように取り組んでいきたいと考えている。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個々の心身状況を職員間で情報共有し、利用者同士の関係が落ち着き、安心して過ごす事ができる様に配慮している。落ち着かないときに、一緒に作業をすることで会話がが増えて、表情も変わる時もある。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ホームに來られ行事のお誘いをして頂いたり、遊びにきてくださいと関係作りを職員一同努めている。マラソン大会時の際には、応援グッズを作り応援しています。 | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | これまでの生活というものを大切に考え訴えや思いを受け止められるよう努めている。必要に応じて、ゆっくりと一対一で話す機会も作る事がある。 | 知人やご家族の方々から情報を頂いたり、ご本人との日常会話や行動、表情等から、ご本人の思いを把握するように努めている。ご利用者と行動を共にしながら、感じたこと等を会議の中で話し合い、KJ法にて“どのような気持ちなんだろうか”という事を、みんなで共有し理解を深める取り組みが行われている。 | 自分の思いを表現できない方の気持ちについても、職員間で情報を共有し、“気持ちシート”等を活用しながら、把握に努めていきたいと考えられている。更なる取り組みに期待していきたい。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | バイタルチェックや顔色、声かけ等をし普段と違う所はないか把握し、体調が悪そうな時は無理しないように声掛けをし、様子を観察する。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの意思を尊重しながら、その日その日のリズムやペースに合わせている。いつもは、自室で過ごしているが、フロアに出てみんなと過ごしたい・寂しいので誰かいて欲しい・何かできそうな事はないか等、現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員間におけるの気づき、検討。訪問看護師やPTによる助言・利用者との日々の関わりの中での思い、また家族の意向などを頂き、その思いを反映できる様に、職員間で情報を共有しながら取り組んでいる。 | 計画作成担当者が作った原案を、職員全員で検討し、計画を作り上げている。計画には、高齢で面会に來れないご家族から、「自分がデイに來たときに連れて來て欲しい」といった提案やターミナルケアへの要望等、ご利用者の希望を組み入れたものになっており、主治医や訪問看護師からの助言も頂きながら、作成されてい | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個々の日々の様子や実践・状況・気づきなどは介護計画実行表へ記載をしている。状況の変化などがあれば、随時気づきノートや業務日誌を活用し、職員間の情報共有を図り検討している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 出来る限りの要望に対応できるように、勤務状況や行事・時間等の調整を行い、本人・家族が安心していただけるように取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事がある時には、チランなどを頂いたり、情報提供を図りながら、地域の方へ出向き、安心した暮らしの関係づくりに取り組んでいる。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人・家族の希望するかかりつけ医を受診している。心身状況に応じて随時、意見や要望を伺い、他の医療機関も利用されている。 | およそ半数のご利用者は、入居する以前から利用されていた医療機関へ受診されている。通院介助は職員が行うが、必要に応じてご家族にも同行して頂き、主治医からの説明を受けて頂くこともある。受診結果については、電話連絡や広報誌にコメントを記載し、ご家族に不安や心配を与えないような配慮がされている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎週金曜の訪問看護日に合わせて事前に気付き等を記録に残し、個々に報告し助言を頂いている。職員間の情報周知を図る為、訪問看護記録の確認も行っている。緊急な場合も随時適切な対応が出来るように、支援して頂いている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 普段から定期的な受診の時の主治医・看護師との関係作りに努めている。入院時・退院時に於いても必要な情報提供を行い、家族と共に同伴させて頂いている。入院中の経過報告も地域連携室より電話を頂いている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 心身状況の変化を見極め、本人・家族の意向を確認し、主治医との情報交換を図りながら、早期対応に努めた。また、訪問看護師により助言や指示をもらいながら、方針の共有・支援に取り組んでいる。 | ホームでは、ご利用者やご家族の希望に応じ、ご利用者の精神的なケアを中心とした「看取りの介護」を行っている。主治医に定期的な心身状況を報告し、必要な関係者と密に情報交換を行っている。週に1回訪問看護師の訪問の他、月に1,2回ホームの協力医の往診があり、必要時は夜間の往診にも対応して頂ける。ご利用者の状態の変化が見られた時も迅速に対応頂ける体制が整えられている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 全職員が2年に1回、救急法の受講をしている。系列のグループホームと行う会議では、訪問看護師にも参加していただき、心身状況に応じた処置の方法を学び、実践に努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | マニュアルを作成し、定期的に消防署・防災設備会社の協力を経て避難訓練や消火器の使用方法等の訓練を実施している。地域の住民の方の所へ訪問し協力を依頼している。 | 年2回の避難訓練と合わせて、自主点検表のチェックも行われている。火災の原因になる可能性のあるストーブの撤去も行われた。災害に備えて、個人カードが準備され、お茶等の飲料水の他、カップラーメンや乾パン、クッキー、オムツ等も準備されている。近々、消防署の方から、AEDの使用方法についての指導を受ける予定となっている。 | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個々のケアに於いて、尊厳を大切に言動やケアに於いて留意している。職員間で気付きなど検討され、随時対応されている。 | 職員全員で接遇の研修を受けており、指導、命令的な言動を慎みながら、日々ご利用者への尊敬の気持ちを持ちながら支援に取り組んでいる。大きな声で申し送りをしないことや、不必要にご利用者、ご家族の話をしていない等、情報漏洩への配慮も行われている。 | 気づかない内に相手を傷つけていたり、焦りが態度に出てしまうことがある。日頃の生活の中で、自分では気付かない部分を職員間できちんと話し合いながら、プライバシーの保護に努めていきたいと考えられている。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人ひとりが話しやすい雰囲気作り、場の設定に努め思いが発信できるように、職員間で情報共有を行いながら取り組んでいる。また、声掛けを行い外出やおやつ弁当選びなど選択場面を作るのに努めています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの心身状況に応じて日々暮らしていただけるように、対応している。無理はせず本人のペースに合わせて、希望を考慮し取り組んでいる。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 服装など着替えをするときは、自分で判断していただき、出来ない方には、その人に合った服装を選ぶように努めている。髪型も乱れているときは、気をつけて直している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 皮むきや切る作業、盛り付け、味見、片づけ等出きる事や昔ながらの作り方を聞いたりしながら、職員と一緒にして頂いている。 | ご利用者の希望を伺いながら献立を作り、ご家族が差し入れて下さった野菜や魚、ホームの畑で収穫した旬の野菜を使った料理が出されている。母の日にバイキングを楽しんだり、手打ちうどんや味噌作りなども行われ、楽しい食事の時間を過ごして頂いている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 職員間で一人ひとりの好みや調理法を把握されており、食べやすい形、大きさ等を工夫されている。水分摂取量一日1500ミリリットルを目標に取り組んでいる。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後にお口の中を綺麗にするために、義歯の洗浄やうがいに取り組んでいる。自分で出来る人は自室で行っている方もいる。歯科衛生師より口腔体操や義歯がない方の手入れの仕方の助言を頂く。 | | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表にて、個々の排泄パターンを周知しており、定期的にトイレ介助を行っている。オムツの方も食事後は、本人の意思にてトイレで排泄している。 | 紙おむつの方で、1週間、1時間おきに排泄チェックを行い、データを取り、トイレでの排泄が行えるような取り組みが行われた。昼間はリハビリパンツを止めて、パッドで対応するなどの支援も行われている。周囲に配慮しながらのトイレ誘導の声かけや、露出部分を最小限にしたり、トイレのドアをきちんと閉める等、羞恥心への配慮も行われている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 一人ひとりの食事・水分摂取量の確認や、排便の間隔を確認している。時には、ヨーグルト等を使い自力排便を促している。訪問看護師の助言を頂いたり、必要に応じて主治医へ相談している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 個々の体調やその時の心身の状況に応じて、入浴がいつでもできるように取り組んでいる。早く入りたい方最後がいい方好みを把握し取り組んでいる。 | ホームでは入浴時間や回数等は決めておらず、ご本人の希望に合わせて、入浴して頂いている。入浴を好まない方には、理由を伺いながら、職員間で情報を共有し、ご本人とお話しながら気持ちよく入浴して頂いている。季節に応じて、菖蒲湯・ゆず湯を楽しみ、心身状況によって併設施設の機械浴も利用して頂いている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | その人その人の安心できる居場所があり、職員も把握している。落ち着かず就寝できない方がおられ、ゆっくりと側で会話したりすることで落ち着くように取り組んでいます。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々の服薬については整理し、いつでもみられるようにしている。薬の変更時にも随時確認し申し送りしている。薬が合わないなど主治医へ相談している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 今までしてきた事など、職員間で情報を交換し合いながら見つけていき、日々の生活の中で役割や楽しみ場面づくりに取り組んでいる。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 心身の状態を考慮し本人の希望を叶えられるように買物や面会等の支援に努めている。また、家族の協力によりお墓参りに出かけてきた方もおられました。 | ご利用者は、日常的にホーム周辺の散歩を楽しまれており、ご利用者の希望に応じて、お花見や富江の温泉センター、大型ショッピングセンター等の外出も行われている。外出の希望を伝えられない方についても、ご利用者の思いを汲み取りながら外出支援に取り組まれているが、十分な支援までには至っていないと考えられている。 | 自己表現が難しい方の思いを受け止め、ご本人の馴染みの場所等をご家族にも伺いながら、できるだけ外出ができるよう取り組んでいきたいと考えている。更なる取り組みに期待していきたい。 |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 何人か自分で小遣い程度は持っている方がおられます。バックの中に直されていて、軽い買物などは、お金をだして買う事もありました。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 遠方からの手紙や贈り物があつたときなどお礼の電話をしたり、年賀はがき、暑中見舞いのはがきを送っています。家族への電話、知人等へも気軽に出来るように支援しています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間の和室には仏壇、床の間、押し入れ、テレビ等を設置して、家庭的な雰囲気作りに配慮しています。玄関周辺には四季の花、部屋のテラスに野菜を植えたプランターで、緑のカーテンの演出。目の前の畑には、季節の野菜を植え、成長の観察をしている。 | ホーム入り口から玄関に続く石塀の隙間には、陶器で作った手作りの小さな人形がさりげなく飾られている。広くて明るいリビングには、テーブルやソファが置かれ、眼下に広がる海を眺めることができる。明るい室内は、カーテン等で光の調節が行われ、食器、スリッパの音、テレビ、音楽の音量、声の大きさ、ドアの閉める音等、音に対する配慮もされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアーには、一人ひとりの落ち着く場所がある。居間では、ゆっくりできる広さになっており、廊下には、ソファを置き好きなように過ごしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 事前に本人、家族と相談し出来るだけ自宅にあつた物を持ってきていただき、安心して過ごせるように努めています。 | 入居の際には、馴染みの物を持ってこられるよう、あらかじめご利用者やご家族に相談しており、ご家族の写真やテレビ、習字道具やラジオ、衣装箱やお仏壇を持って来られたご利用者もおられる。自分の部屋が2つあると思いでおられる方には、職員が説明しながら、実際にホーム内を案内して見て頂くことで安心して頂いている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室、トイレ、浴室などには、マークや貼り紙をして、場所がわかるようにしている。 | | |

事業所名: ゆたっとはうす

作成日: 平成 22 年 12 月 21 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。 | | | | | |
|--|-------|---|--|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 4-3 | 会議の場を通して、出席者の方から意見や要望をいただけるように工夫し、今後も参加メンバーの検討を継続して考えていく必要がある。 | 運営推進会議の充実に努める。 | 会議の内容に応じて、参加メンバーを検討し近隣の協力者の方や地域の消防団の方に参加していただけるよう努めていきたい。 | 12 ヶ月 |
| 2 | 20-8 | 本人がこれまでに大切にできていた馴染みの人や場所との関係が崩れないように、これからもご家族の方々の協力を得ながら、支援していく必要がある。 | 馴染みの人や場所を大切に考え支援していきたい。 | 地域の行事などへの参加を通して、なじみの方々との交流を図っていきたい。ご利用者(自己表現の難しい方)の情報もご家族などから伺いながら、施設として年賀はがきや暑中・寒中お見舞いのはがき等を積極的に送って、関係を保てるよう努めていきたい。 | 12 ヶ月 |
| 3 | 23-9 | 自分の思いを表現できない方々の気持ちを考え、職員間で情報共有し、意向の把握に努めていく。 | 今までのご利用者の生活というものを、大切に考え思いや訴えを受け止められるよう努める。 | ご利用者と行動を共にしながら、思ったこと・感じたことなどを、職員間で情報を共有し、気持ちを表現できない方も「気持ちシート」等を活用し把握に努めていきたい。 | 12 ヶ月 |
| 4 | 36-14 | 職員には、自分では気付かない言動や行動があるのではないか、ご利用者の気持ちに添えているのかを考える事が必要である。 | 職員みんなで、ご利用者の気持ちになって、常に考え、温かく接していきたい。 | ご利用者一人ひとりに対する言葉掛けや接し方、自分では気付かない部分を会議等で話し合い、プライバシーの保護に努めていきたい。 | 12 ヶ月 |
| 5 | 49-18 | 心身の状況を考慮し、本人の希望を叶えられるように買物や面会等の支援を継続して行っていく。 | 一人ひとりの希望に添えるよう、支援していく。 | ご利用者(自己表現の難しい)方々の思いを汲み取りながら、ご家族の方々とも連絡を取り合い、馴染みの場所等に外出ができる様に取り組んでいきたい。 | 12 ヶ月 |